

文学部通信教育課程

【2025 年度 大学評価総評】

文学部通信教育課程における 2025 年度の自己点検・評価は、遠隔教育における教育の質保証と社会的要請への適応という二重の課題に対して、組織的かつ柔軟に対応している点で高く評価される。特に、統合認証の付与およびオンラインスクーリングの導入は、教育機会の均等化と学修支援の質的向上を同時に実現する基盤的施策であり、時代の要請に即した改革の一環として注目される。また、卒業論文の電子提出制度を 2027 年度から導入予定とした点においても、長期的な制度設計と実務の両立を見据えた計画性が感じられる。

他方で、課題として継続的に指摘されてきた定員充足率の問題については、日本文学科における志願書様式の見直しをはじめ、入学者受け入れ段階での精緻な対応がなされており、定性的・定量的両面からの受験者動向の分析が進みつつあることは心強い。こうした試みは、伝統を継承しながらも構造的に転換を図る姿勢の現れであり、今後の定員確保および教育成果の可視化における成果として結実することが期待される。一方、専任教員採用について慎重かつ十分な議論を行い、教員構成の改善に繋がる専任教員の採用を実現しているものの、一部の人事で学部と市ヶ谷リベラルアーツとの間で要望に齟齬が生じ、採用に遅れが生じたことは、今後全学的に検討すべき課題であろう。

全体として、通信教育課程は、多様な学習者層に対応した教育展開を図るとともに、制度・運営両面における継続的改善を通じて、遠隔教育のフロンティアとしての地位を堅持している。今後も本課程の特性を踏まえた戦略的改善と効果検証の深化により、より質の高い通信教育の実現が期待される。

【2025 年度 自己点検・評価結果】

I. 改善・向上の取り組み

(1) 2024 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2024 年度大学評価結果総評】(参考)

文学部通信教育課程では、2022 年度実施の学生モニターの結果を踏まえ通信教育部学生のニーズを把握すること、2023 年度には全学の学習支援システムの統合認証を学生に付与すること、オンラインスクーリングを導入することなど、教育課程・教育内容の適切な評価・改善を継続的に実施している点は高く評価できる。その効果の測定方法については、まだ道半ばであり適切な結果は得られていないものの、方法の検討・改善など前向きに取り組む姿勢は評価できる。ぜひよい結果がでることを期待したい。

一方で、現状分析の基準 5：学生の受け入れについて、定員充足率の項目が（おそらく継続的な）課題となっている部分は、厳しい環境条件であるだろうことは想像しつつも、大学評価の観点からすれば一定の改善を期待したい、望まれるポイントである。おそらく問題意識は共有されていて、学科ごとに改善計画も策定されており、課題解決へ向けた前向きな取り組みとして評価される。他方、通常の通学課程においても将来の少子化傾向に鑑み、学生の確保対策に取り組んでいる最中である。それとは直接的な状況が異なるとしても、充足率の減少傾向が事実なのであれば、何かしら効果のある実効的な対策を講じる必要がある部分は共通である。絶対的パイが減る中で、いかに充足率を維持するかへの即効的な解決策を見つけることは難しい問題であるが、これまでの伝統・歴史を大切に温めつつも、時代の変化に臨機応変に対応してゆくしなやかな対応を期待したい。

【2024 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

上記「総評」にて高い評価をいただいた「統合認証の付与」「オンラインスクーリングの導入」を踏まえて、該当学科にて概説科目・演習科目の配置や開講形態を含めたカリキュラム構成を検討し、2025 年度の授業編成に反映させた。あわせて、オンライン開講／対面開講に適したスクーリング授業の検討や、統合認証利用・オンライン活用に基づく試験実施・レポート提出の方法、卒業論文の電子提出の活用などについても検討を進めた。卒業論文の電子提出は、(従来の提出方法とあわせて) 2027 年度から実施することを決めたので、引き続き適切な教育内容・方法の検討・改善を図りたい。

他方、課題として指摘のあった学生の受け入れについては、出願書類の内容について各学科で検証を行い、日本文学科の「志願書 2」の改訂という形でその結果を反映させた。少子化などの厳しい環境条件の中で、その効果が学生の出願状況などにどのように表れるか、今後の影響を見極めたい。

＊第3回（6月）・第4回（7月）教授会議事録参照。

Ⅱ. 全学的な自己点検・評価結果より見出された重点的な評価項目

（１）自由を生き抜く実践知を体現する取り組み

学部（学科）における「実践知」を体現する取り組みについて、改善・向上を図っていますか。 ＜対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞ ＜対応する大学基準：社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
《内容》		

（２）通信教育部の新たな改革に向けての取り組み

『通信教育部改革の検証について（報告）』を受けて」（2021 年度第 8 回通信教育学務委員会資料 No. 7）において示された新たな改革に向けた取り組みのうち、以下の点について、改善・向上を図っていますか。 ＜対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞		
初年次教育と若年層入学者への対応について	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
《内容》		
遠隔会議システムを利用したスクーリングの常設や教育のオンライン化について	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	S（さらに改善した又は新たに取り組んだ）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
《内容》 1（１）の「評価結果への対応状況」にも記載した通り、2024 年度から、学生への統合認証付与に基づくオンラインスクーリングを開始した。それに伴い、オンライン環境下での試験の実施方法やレポート提出の方法などについても各学科で議論を進めたほか、卒業論文の電子提出についても検討を進め、2027 年度から従来の提出方法と併用してこれを実施することとした。今後のスクーリング科目（対面・メディア・オンライン）の設定についても、スクーリング授業の受講者動向を踏まえた検討を、各学科で行った。 ＊第3回（6月）教授会議事録参照。		

Ⅲ. 2024 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	体系的な専門科目と幅広い教養科目から成る現行のカリキュラムを維持・発展させる。また、時代の変化に対応した科目設定の見直しを不断に行うとともに、より幅広い学びを可能とするカリキュラムのあり方についても検討する。
年度目標	新たに導入した学習支援システムやオンラインスクーリングが今後のカリキュラムの見直しや再編につながるかどうかについて各学科において検討し、必要に応じてカリキュラム改編を行う。

達成指標		現在のカリキュラム編成状況を検証するための学科会議を開催する。
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	カリキュラム編成状況の検証は通信教育課程をもつ日本文学科・史学科・地理学科の3学科においてそれぞれ学科会議の中で行われている。概説科目や演習科目の配置や開講形態について検討が進められ、2025年度の授業編成に結実している。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	学習支援システムやオンラインスクーリングの導入を踏まえ、カリキュラムの編成状況を学科で検討し、それを2025年度の授業編成につなげることができた。年度目標は達成できたと言える。
	改善のための提言	今後、授業を実施する中で出てきた課題をさらなる授業編成の改善につなげていけるよう、検討を継続していく必要があるのではないか。
評価基準		教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標		学生の主体的な学びをさらに実現するための方策を積極的に導入する。特に、メディアスクーリングを含むスクーリング授業の実施方法について引き続き検討する。
年度目標		スクーリング授業の実施状況を検証する。あわせてスクーリングの開講日程について通学課程の開講日程との調整を図る。
達成指標		対面ないしオンラインで実施されているスクーリング授業が適切に配置されているかどうかを学科会議において検討し、必要に応じて改善を行う。また、スクーリングの開講日程について学務委員会で確認し、適切性を確保する。
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	スクーリング授業の実施状況を各学科で吟味し、オンライン開講にふさわしい授業や対面で行うべき授業について各学科で検討した。また、学務委員会において2025年度のスクーリングの開講日程に通学課程の日程との重複がないよう要望・確認し、その適切性を確保することができた。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	スクーリングの授業形態や開講日程について学科および学務委員会で検討し、いずれについても適切性を確保することができた。年度目標は達成できたと言える。
	改善のための提言	スクーリングの授業形態の適切性については、今後も学生の要望等に鑑み、検討を継続していく必要があるのではないか。
評価基準		教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標		学習成果の多様で、効果的な測定方法の導入を検討する。特に、通信学習科目におけるレポート評価点の成績への反映方法について検討する。
年度目標		学生に統合認証が付与され新しい環境の下で実施されるオンラインスクーリングにおいて、学習成果を適切に測定するための方法や課題について検討する。
達成指標		学科会議において議論し、その成果を教授会で共有する。
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	学生に統合認証が与えられたことによるオンラインスクーリングの運営方法について、各学科における教育の特性に応じた報告と検討がなされた。特にオンライン環境下での試験の実施方法やレポートの提出方法について議論が進んだ。さらに、新たなオンライン環境を活用し、卒業論文の電子提出について各学科で審議し、2027年度から従来の方法と併用して開始することを第3回教授会で決定した。

	改善策	学生への統合認証の付与による効果と課題、取りうる対応については年度目標を超えた議論と成果が出ているため、今後も臨機応変に対応していくべきであろう。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	統合認証の付与によってオンライン環境が活用できるようになり、通信教育らしさがより一層発揮できるようになった。年度目標は十分に達成できたと言える。
	改善のための提言	地方スクーリングなど、オンライン環境のないところでの運用についてはさらに検討が必要ではないか。
	評価基準	学生の受け入れ
	中期目標	各学科が定めるアドミッション・ポリシーを体現する現行の入試制度を維持するとともに、その発展をめざし、検証と見直しを進める。
	年度目標	各学科の専門領域に対する学習意欲をもつ入学希望者を適切に入学させるために、出願書類の「志願書 2」を検証し、必要に応じて内容を変更する。
	達成指標	学科会議において出願書類を検証し、変更について審議する。
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	出願書類の内容については各学科において適切に審議され、日本文学科において「志願書 2」を改訂することとなり、第 4 回教授会において承認した。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	出願書類の内容についての検討を続け、日本文学科における「志願書 2」の改訂につなげることができた。年度目標は十分に達成できたと言える。
	改善のための提言	—
	評価基準	教員・教員組織
年度 末 報 告	中期目標	各学科の人事に関する内規に従い、専任教員の募集、採用、昇格を適切に行うとともに、年齢、国際性等において多様性をもった教員構成の実現をめざす。
	年度目標	年齢、国際性等の観点から教員組織の現状を検証し、さらに多様性をもった教員構成を目指す。
	達成指標	人事委員会および教授会において、過年度の教員採用状況を共有し、教員構成の将来像を見据えつつ、専任教員の新規採用に関する審議を行う。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	第 1 回・第 4 回・第 5 回・第 6 回・第 7 回・第 8 回人事委員会および教授会において、日本文学科、地理学科の専任教員採用について慎重かつ十分な議論を行い、教員構成の改善に繋がる専任教員の採用を実現した。 一方、英文学科における 2 表教員の採用については ILAC 諸語分科会との間に要望上の齟齬が生じていることから、学部・学科教育と教養教育を両立することのできる教員の採用に至っていないことには課題を残している。ただし、哲学科の 2 表教員の採用においてはそのような齟齬が生じることなく人事を進めつつある。
	改善策	ILAC 運営委員会のもとで進められるプロジェクトにおいて、英文学科で採用する教員の分野等について検討・調整する予定である。
	質保証委員会による点検・評価	
年度 末 報 告	所見	日本文学科、地理学科において教員構成の改善に繋がる専任教員の採用が実現した。また哲学科の 2 表教員人事も進みつつある。しかし英文学科の 2 表教員人事は、学科・学部・ILAC 運営委員会において十分に議論を重ねつつも、思うように進展していない。
	改善のた	改善策にある通り、今後は 2 表教員人事を市ヶ谷キャンパス全体の問題として捉え、

	めの提言	ILAC と学部の間で要望の齟齬が起こらないよう調整していく必要がある。
	評価基準	学生支援
	中期目標	通信教育に学ぶ者として学生がいかなる教育を受ける機会を望んでいるかについて把握に努め、得られたものを学生支援において生かしてゆく。
	年度目標	学生の希望をもとに導入したオンラインスクーリングに対する受講希望や受講状況を把握し、今後のスクーリング科目の設定に活用する。
	達成指標	通信教育部の在学生アンケートやスクーリングの受講動向を各学科で検討する。
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	通信教育部より提供を受けた各学科におけるスクーリング授業の受講者動向について、学科内で共有するとともに意見交換を行い、今後の参考にすることができた。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	スクーリングの受講者動向を踏まえ、今後のスクーリング科目の設定について学科で議論を行った。年度目標は達成できたと言える。
	改善のための提言	—
	評価基準	社会連携・社会貢献
	中期目標	社会人の学び直しの動向を受け、いま以上に社会人の学習の機会を提供するよう努める。
	年度目標	より多くの社会人学生のニーズに応えられる、オンラインスクーリングの方策を検討する。
	達成指標	オンラインスクーリングにおける開講科目の多様性を確保する方策について学科で検討を開始する。
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	各学科において授業編成を検討する際に、今後オンライン化する科目についても検討をはじめているところである。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	仕事との両立を図る社会人学生のニーズに応えるために、オンライン科目拡充の検討を始めたことは評価できる。年度目標は達成できたと言える。
	改善のための提言	—
【重点目標】		
スクーリング授業の実施状況を検証する。あわせてスクーリングの開講日程について通学課程の開講日程との調整を図る。		
【目標を達成するための施策等】		
2024 年度より開始されるオンラインスクーリング（夏期 1 群、冬期 1 群、後期に実施される週末スクーリング）によって、スクーリング授業全体の受講動向がどのように変化するか学科毎に確認する。また、オンラインスクーリングが科目の特性に応じて適切に実施されているかどうかを各学科において検討し、必要に応じて改善を行う。さらに、スクーリングの開講日程について学務委員会で確認し、通学課程授業との調整を通じて適切性を確保する。		
【年度目標達成状況総括】		
2024 年度の文学部通信教育課程においては、オンラインスクーリングの開始に伴って、前年度中に行ったオンライン開講にふさわしい科目の選定にもとづいて、その開講状況を各学科で検討・共有することができた。オンラインスクーリングはまだ実施初年度であることから、学生の履修動向が大きい		

く変化したとまでは断言できないが、上京することの難しい地方在住者のニーズをある程度満たしつつあると考えている。オンラインスクーリングに配置する科目の適切性については学科毎に検討が進められ、演習科目を対面で行う必要性を確認した学科もあり、次年度授業編成を考える上で大いに参考になった。スクーリングの開講日程については、2024 年度のスクーリングの日程の一部が通学課程の最終授業日と重複していたため、2025 年度については改善を依頼し、適切な日程を設定することができた。志願書の見直しも適切に行うことができ、教員採用についても日本文学科、地理学科において組織のあり方にふさわしい形で実現することができた。文学部通信教育課程では、2024 年度の目標を概ね達成することができたと認識している。

IV. 2025 年度中期目標・年度目標

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	体系的な専門科目と幅広い教養科目から成る現行のカリキュラムを維持・発展させる。また、時代の変化に対応した科目設定の見直しを不断に行うとともに、より幅広い学びを可能とするカリキュラムのあり方についても検討する。
年度目標	スクーリング科目の実施形態として、対面／メディア／オンラインの配置バランスと有効性を検討し、カリキュラム編成につなげる。
達成指標	学科会議にて、2024 年度スクーリング科目の対面／メディア／オンラインの履修状況（および可能な範囲での 2025 年度の状況）を把握し、次年度以降のカリキュラムのあり方について検討する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	学生の主体的な学びをさらに実現するための方策を積極的に導入する。特に、メディアスクーリングを含むスクーリング授業の実施方法について引き続き検討する。
年度目標	昨年度導入したオンラインスクーリングの効果と課題を検証する。
達成指標	学科会議にて、オンラインスクーリングの受講状況や学生の取り組み状況等を情報共有し、どのような効果と課題があるのかを把握する。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	学習成果の多様で、効果的な測定方法の導入を検討する。特に、通信学習科目におけるレポート評価点の成績への反映方法について検討する。
年度目標	昨年度決定し、2027 年度から開始される卒業論文の電子提出に向けて、準備を進める。
達成指標	電子提出実施に向けた課題を学科と事務間で協議し、その結果を関連学科間で共有する。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	各学科が定めるアドミッション・ポリシーを体現する現行の入試制度を維持するとともに、その発展をめざし、検証と見直しを進める。
年度目標	各学科の専門領域に対する学習意欲を持つ入学希望者を適切に入学させるため、出願書類の「志願書 2」の適切性を検証して必要に応じて見直しを行う。
達成指標	出願状況を踏まえ、入学判定を行いながら出願書類の「志願書 2」について今年度から変更した、あるいは変更しなかった影響を各学科で把握し、必要があれば変更を加える。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	各学科の人事に関する内規に従い、専任教員の募集、採用、昇格を適切に行うとともに、年齢、国際性等において多様性をもった教員構成の実現をめざす。
年度目標	各学科のカリキュラムに応じた適切な教員構成の実現に向けて、教員組織が通学課程と連動している通信教育課程として適任者の採用を実現する。
達成指標	今年度新規教員募集を予定している日本文学科、地理学科の人事において、適任者の選考・採用を行う。あわせて昨年度来の課題となっている英文学科の新規採用人事において、学部・学科の専門教育を担いつつ教養教育を充実させることのできる適任者の選考・採用を行う。
評価基準	学生支援

中期目標	通信教育に学ぶ者として学生がいかなる教育を受ける機会を望んでいるかについて把握に努め、得られたものを学生支援において生かしてゆく。
年度目標	オンラインスクーリングが導入されたことを踏まえ、学生たちがどのような理由でどのような授業形態を望んでいるかを把握し、必要に応じてスクーリング科目の開講形態について検討する。
達成指標	各学科のスクーリング授業の受講者動向について情報共有し、卒業論文二次指導などを活用して各学科で受講希望や受講状況を把握する。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	社会人の学び直しの動向を受け、いま以上に社会人の学習の機会を提供するよう努める。
年度目標	社会人学生の受講状況や取り組み状況を把握し、今後のスクーリング科目の開講形態の方針に活用する。
達成指標	2024 年度スクーリング科目の対面／メディア／オンラインの履修状況を踏まえ、社会人を含めた多様な学生のニーズに応えられるスクーリング科目の開講形態について各学科で議論する。
【重点目標】 スクーリング科目の実施形態として、対面／メディア／オンラインの配置バランスと有効性を検討し、カリキュラム編成につなげる。 【目標を達成するための施策等】 2024 年度からオンラインスクーリングが導入されたことを踏まえ、スクーリング科目の対面／メディア／オンラインで変化した履修状況を把握することが可能になっており、また卒業論文二次指導なども活用して受講希望や受講状況を確認しながら次年度以降のスクーリング科目の対面／メディア／オンラインの適切な配分を各学科で議論し、カリキュラムのあり方について検討する。	